

“音楽都市こおりやま”市民音楽祭主催行事
けんしん郡山文化センター 市民コンサートホール

楽都
郡山

安積合唱協会

ASAKA Chorverein

第26回 定期演奏会

26th Regular Concert

安積黎明高等学校合唱団 賛助出演



本日はお忙しい中、第26回定期演奏会にご来場いただき誠にありがとうございます。

今年も多くの皆様のご支援により本日の演奏会を開催できますことはこの上ない喜びであり、ご支援を賜りました皆様に心より感謝申し上げます。

また、東日本大震災からの復興に向かう中、充実した演奏活動を行うことができるのは、偏に、当協会を支えてくださいます多くの方々の温かいご支援とご協力の賜であり、あらためて深く感謝申し上げます。

当協会は、1992年の結成以来、中世・ルネッサンス・バロック時代の甘く美しい教会音楽や古今東西の名曲を中心に演奏活動を続け、これまで、25回にわたる定期演奏会のほか、合唱コンクールやアンサンブルコンテスト、京都バッハ合唱団様々など県内外の合唱団の方々との共演、さらには、ドイツ、オーストリア、フランスでの海外公演など幅広い演奏活動を重ねてまいりました。昨年の創立25周年の大きな節目をステップとして、今年も、安積合唱協会らしい響きを皆で紡いでまいります。

そして、いよいよ平成から新しい時代への幕開けとなる2019年。

時代を超えて、世代を超えて、未来につなげ伝える演奏会にしようとの思いから、福島県立安積黎明高等学校合唱団の皆様にご賛助出演をいただき、本日の演奏会の運びとなりました。

～つなげ未来へ、ハーモニーのバトン♪～

新たな時代に向かう今回の演奏会に、この副題を添えさせていただきました。第1ステージから第3ステージまでは、安積合唱協会、安積黎明高校合唱団による単独演奏を披露するほか、第4ステージでは、両合唱団の合同演奏により三善晃作品をお届けします。

古今東西を代表する名曲や、皆様にも馴染みの曲もあろうかと思っておりますので、どうぞ最後までお楽しみください。

来たる新しい時代を一つの節目として、私たち自身がこれまで以上に元気に演奏活動を展開し、絆で結ばれた仲間とともに美しいハーモニーを創り上げ、皆さまに届けていくことが、合唱王国「ふくしま」の復興の証になるものと信じています。

これからもメンバー相互そして皆様との絆を大切にしながら、これまで築き上げてきた演奏スタイルを基本に、優れた音律（チューニング）と各声部の完璧な調整（ブレンド）を備えたオンリーワン合唱団を目指して、安積合唱協会らしい響きを紡ぎ、つなぎ、そして伝えてまいりたいと思います。

最後に、本日の演奏会にあたり、ご来場いただきました皆様、協賛団体、賛助会員はじめ関係者の皆様、そして賛助出演を快くお引き受けいただいた福島県立安積黎明高等学校合唱団ならびに学校関係の皆様重ねて御礼申し上げ、あいさつとさせていただきます。

安積合唱協会



Program

プログラム

第1

ステージ

ルネサンス時代の音楽

Ave dulcissima Maria ようこそ、最愛なるマリアよ [Carlo Gesualdo (1566~1613) 曲]

Officium Defunctorum より「Introitus - Kyrie」

レクイエムから「入祭唱とキリエ」 [Tomás Luis de Victoria (1548~1611) 曲]

Missa Pange Lingua より「Gloria」

ミサ・パンジェ・リングアより「グローリア」 [Josquin des Prez (1450頃~1521) 曲]

第2

ステージ

ドイツ・ロマン派と現代ポーランドの合唱曲

Chor der Engel 天使の合唱 [Franz Peter Schubert (1797~1828) 曲]

Jauchzet dem Herrn, alle Welt

主に向かって歓呼せよ [Felix Mendelssohn Bartholdy (1809~1847) 曲]

Warum ist das Licht gegeben dem Muhseligen

なにゆえ光が悩む者に与えられ [Johannes Brahms (1833~1897) 曲]

O gloriosa virginum 栄光あるおとめよ [Krzysztof Penderecki (1933~) 曲]

第3

ステージ

福島県立安積黎明高等学校 合唱団ステージ

混声合唱のための「コスミック・エレジー」から 3.わが叙情詩 [作詩:草野 心平、作曲:千原 英喜]

女声合唱とピアノのための「譚詩頌五花」から 2.宇宙の滴りをうけて [作詩:高田 敏子、作曲:鈴木 輝昭]

瑠璃色の地球 [作詞:松本 隆、作曲:平井 夏美、編曲:源田 俊一郎]

今、咲き誇る花たちよ [作詞・作曲:小淵 健太郎、編曲:濱崎 晋]

第4

ステージ

合同ステージ(三善晃の作品から)

男声合唱：唱歌の四季より「朧月夜」「雪」「夕焼け小焼け」

女声合唱：三つの抒情より「ふるさとの夜に寄す」

混声合唱：地球へのバラードより「地球へのピクニック」

ピアノのための無窮連祷による「生きる」

指揮: 宍戸 真市

ピアノ: 橋本 絵美

日時 / 2019年2月24日(日) 13:30開場 14:00開演

場所 / けんしん郡山文化センター (郡山市民文化センター) 大ホール

主催 / 安積合唱協会

共催 / 郡山市、郡山市教育委員会、公益財団法人 郡山市文化・学び振興公社

後援 / 福島民報社、福島民友新聞社、朝日新聞福島総局、福島テレビ、福島中央テレビ、テレビユー福島、福島放送、ラジオ福島、ふくしまFM、福島県合唱連盟、郡山市音楽連盟

ルネサンス時代の音楽

「音楽」≡「合唱」であった時代、合唱音楽の黄金時代、それが西洋音楽のルネサンス時代です。だいたい15世紀後半から16世紀まで、つまり1450年頃から1600年あたりまでを指します。そしてこの時代の合唱は、いくつかのパート(声部)が対等に寄り添い重なり合いながら繰り広げられるものになっています(声楽ポリフォニー)。「静かな湖畔の森の影から…」の歌を想像してください。同じメロディーをいろいろなパートが追いかけてこしていますね。簡単に言えばこのようなやり方で作られていく曲が多いのがこの時代の大きな特徴です。

ジェズアルド「ようこそ、最愛なるマリアよ」

ジェズアルド(Carlo Gesualdo 1566～1613)は、後期ルネサンス時代のイタリアで活躍した作曲家です。その生涯と音楽の両面で、非常に独特なものを持っています。一言でいえば、変わり者です。貴族の生まれ。妻の不倫現場に乗り込み、愛人もろとも殺害。再婚はしたものの、前妻の遺族からの報復を恐れたこともあり、疑心暗鬼に陥り、孤独で陰鬱な日々を過ごしたといわれています。

こんなキャラクターが音楽にも反映したのでしょうか、彼は独特の和声法(今風にいえばコード進行)を編み出しました。あまりにも前衛的な、突き抜けた表現は後の世代に受け継がれず、孤高の存在となりました。彼のような手法が一般的になってきたのは実に250年後のロマン派の時代のことでした。

本日演奏する「ようこそ、最愛なるマリアよ」は、聖母マリアを讃える5声部の曲で、1603年に出版されました。歌いだしはこの時代の定石どおり、同じようなメロディーの追いかけて(これを通模倣といいます)で始まりますが、途中でジェズアルド特有の、妙に耳に残るハーモニーの移ろいが聴かれます。

(歌詞はラテン語)

Ave, dulcissima Maria,

ようこそ、最愛なるマリアさま、

vera spes et vita, dulce refrigerium!

まさに(わたしたちの)希望、命、優しい慰め(となる方)

O Maria, flos virginum,

おお、マリアさま、おとめらの花よ、

ora pro nobis Jesum.

わたしたちのためにイエスさまに祈ってください。

ビクトリア「レクイエム」から「入祭唱とキリエ」

トマス・ルイス・デ・ビクトリア(Tomás Luis de Victoria 1548～1611)は、ルネサンス時代のスペインを代表する作曲家です。若くしてローマに出て音楽を学び、およそ20歳年上のパレストリーナからも作曲法を学んだといわれています。そしてローマで音楽家として出世し、名声も得ましたが、帰郷

の念抑えがたく、国王フェリペ2世の計らいで40歳前にスペインに戻りました。そして国王の妹で、夫(神聖ローマ皇帝)に先立たれ、マドリードの修道院で余生を送っていた皇太后マリア付きの司祭として、祈りと音楽に身を捧げる生活に入りました。

その皇太后マリアが1603年に亡くなったのを契機に作曲されたのが「死者のための聖務曲集」で、その中心となるのが「レクイエム(死者のためのミサ曲)」です。声部編成はSSATTBの6声で、充実した響きが展開されます。このレクイエムは6つの部分(楽章)に分かれますが、本日は最初の「入祭唱とキリエ」をお送りします。冒頭はグレゴリオ聖歌(教会で古くから歌われてきた単旋律の聖歌)によって唱えられます。また、曲の途中でもグレゴリオ聖歌に委ねられる部分があります(対訳で下線を付けています)。

合唱の部分でも、分かりにくいですが実はグレゴリオ聖歌が歌われています。楽譜を見ると第2ソプラノに白い音符が目立ち、音の進行もゆったりしています。これがグレゴリオ聖歌をゆっくりと引き伸ばして歌った形になっているのです。つまり、ビクトリアはグレゴリオ聖歌をテーマ(定旋律といいます)として第2ソプラノに置いたうえで、他のパートを書いていきました。

この作品を譜面で見ると、シンプルで奇をてらうところがありません。音の流れはむしろ単純ともいえます。しかし実際に歌ってみると、不思議な迫力に打たれます。皇太后を想うビクトリアの情念の炎がほの暗く照りだし、ときにきらめくように燃え上がります。類まれな楽才が心血を注いで紡ぎだした名曲を味わってください。

(歌詞はラテン語)

Requiem aeternam dona eis, Domine;

永遠の安息を彼らに与えたまえ、主よ。

et lux perpetua luceat eis.

絶えざる光で彼らを照らしたまえ。

Te decet hymnus Deus in Sion;

神よ、シオンでは賛歌がふさわしく歌われ、

et tibi reddetur votum in Jerusalem:

エルサレムでは誓いがあなたに果たされる。

exaudi orationem meam;

わたしの祈りを聞きたまえ、

ad te omnis caro veniet.

全ての肉体は、あなたのもとに来るであろう。

Requiem aeternam dona eis, Domine;

永遠の安息を彼らに与えたまえ、主よ。

et lux perpetua luceat eis.

絶えざる光で彼らを照らしたまえ。

Kyrie eleison:

主よ、あわれみたまえ。

Christe eleison:

キリストよ、あわれみたまえ。

Kyrie eleison, eleison.

主よ、あわれみたまえ。

ジョスカン「ミサ・パンジェ・リングア」より 「グローリア」

ジョスカン (Josquin des Prez 1450頃～1521) は、現在のフランス北部出身、ルネサンス時代を代表する作曲家です。ルネサンス時代はさらに初期、盛期、後期と分けられますが、ジョスカンは盛期ルネサンスの第一人者といえます。「他のすべての作曲家は音に支配されているが、ジョスカンだけは、音を支配している」と、同時代の人にも高く評価され、存命中から名声がヨーロッパじゅうに響いていました。

ジョスカンの特徴は、均整の美、絶妙のバランスにあります。そしてこれはあらゆる時代、あらゆる芸術ジャンルが理想とする姿でしょう。彼の作品は古代ギリシャのヴィーナス像や画家レオナルド・ダ・ヴィンチの作品にたとえることができます。何も加える必要もなく、余計なものも一切ない。後世の人たちのお手本となるべき「古典」として凜とたたずんでいます。

「ミサ・パンジェ・リングア」は、ジョスカンの代表作で、上記の特徴がとりわけ顕著に現れている名曲です。「パンジェ・リングア (pange lingua / 歌え、舌よ)」という題名のグレゴリオ聖歌をモチーフ(動機)にしています。ミミファミレソラ…というメロディーが何度も各パート(4声)で繰り返されながら、天衣無縫とも形容すべき音の綾が織りなされていきます。

(歌詞はラテン語)

Gloria in excelsis Deo.

天のいと高きところには神に栄光

Et in terra pax hominibus bonae voluntatis.

地には善意の人に平和あれ。

Laudamus te. Benedicimus te.

われら主をほめ、主をたたえ、

Adoramus te. Glorificamus te.

主をおがみ、主をあがめ、

Gratias agimus tibi propter magnam gloriam tuam.

主の大いなる栄光のゆえに感謝したてまつる。

Domine Deus, Rex coelestis, Deus Pater omnipotens.

神なる主、天の王、全能の父なる神よ。

Domine Fili unigenite, Jesu Christe.

主なる御ひとりごイエズス・キリストよ、

Domine Deus, Agnus Dei, Filius Patris.

神なる主、神の小羊、父の御子よ、

Qui tollis peccata mundi, miserere nobis.

世の罪を除きたもう主よ、われらをあわれみたまえ。

Qui tollis peccata mundi,

世の罪を除きたもう主よ、

suscipe deprecationem nostram.

われらの願いを聞き入れたまえ。

Qui sedes ad dexteram Patris,

父の右に座したもう主よ、

miserere nobis.

われらをあわれみたまえ。

Quoniam tu solus sanctus. Tu solus Dominus.

主のみ聖なり。主のみ王なり。

Tu solus altissimus, Jesu Christe.

主のみいと高し。イエズス・キリストよ。

Cum Sancto Spiritu in gloria Dei Patris.

聖霊とともに、父なる神の栄光のうちに。

Amen.

アーメン。

第2ステージ

ドイツ・ロマン派と現代ポーランドの合唱曲

ルネサンス時代は合唱の黄金時代でした。それではそれに次ぐ白銀の時代はいつかといえば、19世紀——ロマン派といわれる時代が当てはまるのではないのでしょうか。この時代、アマチュアの合唱団が生まれ、今のわたしたちにつながっていく音楽の楽しみ方が興ってきたのです。

話を大きくすると、産業革命などが要因となって、近代的な市民が現れ、生業(職業=プロ)としてではなく、余暇活動の対象として音楽を求めるといった動きが盛んになってきたのです。そこで求められた音楽とは、第一には合唱でした。道具(楽器)不要、人々が楽譜だけを携えて集まり、楽しめるといったことがポイントだったのでしょうか。こうした流れに呼応して、作曲家もアマチュア合唱団に曲を提供するようになりました。あるいはブラームスのように、音楽家としてのキャリアを合唱団の指揮者からスタートする、というケースも出てきました。ここまで来ると、たくさん作られる合唱曲のなかから、名曲が現れます。それがまた合唱好きのアマチュアを増やします。コンクールや合同演奏会などのイベントも盛り上がります。好循環です。

そんな熱気ある時代(200年～150年ほど前)にドイツ語圏で生まれた曲を3曲、加えてほんの10年前に作られた1曲をお送りします。

シューベルト「天使の合唱」

ロマン派の作曲家たちの先鞭をつけたシューベルト(Franz Peter Schubert 1797～1828)は、オーストリア・ウィーンでの31年の短い生涯に歌曲(リート)をはじめ数多くの名曲を残しました。合唱の分野でも、オーケストラ付きの大規模なミサ曲から、無伴奏の小品まで、さまざまな規模・編成の作品を書いています。

「天使の合唱」は、1816年に作曲された無伴奏・4声部の曲です。ドイツ文学界の巨人ゲーテの代表作「ファウスト」の中の一節を取り出して作曲されたものです。「キリストが死から復活された。喜ぼう」という歌詞の内容ですが、喜びというよりは、奇跡を目の当たりにして襟を正すような、荘重で厳粛な気分が漂います。

(歌詞出典:ゲーテ「ファウスト」第1幕より/ドイツ語)

Christ ist erstanden!

キリストはよみがえられた!

Freude dem Sterblichen,

喜びあれ、死すべき運命の者（人間）に。

Den die verderblichen,

破滅的で、

Schleichenden, erblichen

いつの間にか忍び寄り、親から子に伝わる

Mängel umwandeln.

罪に囲われた者どもに（喜びあれ）。

Denn der Herr ist freundlich

主は恵み深いお方、

und seine Gnade währet ewig

主の御恵みはとこしえに続き、

und seine Wahrheit für und für.

主の真実は代々に及ぶ。

メンデルスゾーン「主に向かって歓呼せよ」

メンデルスゾーン (Felix Mendelssohn Bartholdy 1809 ~ 1847) は、前期ロマン派に属する作曲家です。ユダヤ系の銀行家のもとに生まれた彼は、経済的には何の不自由なく、幼い頃から天分を発揮しました。12歳のときに当時すでに70歳を越えていたゲーテに会い、即興演奏を賛嘆されました。その後も20歳でバッハの「マタイ受難曲」の約100年ぶりの復活上演をプロデュースし、自ら指揮するなど、作曲のみならず音楽のあらゆる方面に活躍しました。恵まれた境遇が音楽にも現われていて、流麗で気品にあふれ、愁いや悩みを感じさせない明るい響きが魅力的です。

「主に向かって歓呼せよ」は1843年に作曲されました。力強い宣言に続いて、4声の合唱が無理なく、自然に進んでいきます。途中、ゆったりとした部分は男声四重唱と女声四重唱の繊細な掛け合いとなります。最後にまた合唱の充実した響きが戻ってきます。

〔歌詞出典：旧約聖書「詩編第100番」／ドイツ語〕

Jauchzet dem Herrn alle Welt.

主に向かって歓呼せよ、全世界よ。

Dienet dem Herrn mit Freuden.

喜びをもって主に仕えよ。

Kommt vor sein Angesicht mit Frohlocken.

賛美をもって主の御前に来たれ。

Erkennet, dass der Herr Gott ist.

知れ、主が神であることを。

Er hat uns gemacht,

主がわれら（人間）を造りたもうた。

und nicht wir selbst,

われら自身が造ったのではない。

zu seinem Volk

主が、主の民としてわれらを造り、

und zu Schafen seiner Weide.

主の牧場の羊たちとしてわれらを造った。

（主を羊飼い、人を羊にたとえている）

Gehet zu seinen Toren ein mit Danken.

感謝をもって主の門へと進め。

Zu seinen Vorhöfen mit Loben.

賛美をもって主の前庭へと進め。

Danket ihm, lobet seinen Namen.

主に感謝せよ、主の御名を賛美せよ。

ブラームス「なにゆえ光が悩む者に与えられ」

ヨハネス・ブラームス (Johannes Brahms 1833 ~ 1897) は19世紀ドイツ・ロマン派の代表的な作曲家ですが、とりわけ合唱のジャンルでは重要な役割を果たしました。前述したように、彼の初期のキャリアは、当時各地に新しく生まれていた市民合唱団の指導者というものでした。したがって、合唱曲を作曲する機会も多く、さらにシュッツやバッハら、いにしえの巨匠に対しても親近感を覚えつつ研究することができたと思われます。また、「第1交響曲」(1876)よりも「ドイツ・レクイエム」(1868)の作曲が早かったという事実(ベートーヴェンの合唱の傑作が晩年に寄っているのと比較すると興味深い)も、彼の合唱への傾倒を示すものではないでしょうか。

「なにゆえ光が悩む者に与えられ」は1877年に作曲され、バッハ研究家であった友人のフィリップ・シュビツァに捧げられました。バッハのスタイルを意識した無伴奏作品で、大きく4つの部分に分かれます。

■第1楽章：神からの試練を「なぜ？」と問いつつ、信仰を保つ義人ヨブ。これほど深刻で重苦しい音楽も珍しいのではないのでしょうか。

■第2楽章：一転明るく、6声の充実した響きの中で「哀歌」から信仰を確信した部分を歌います。

■第3楽章：新約聖書「ヤコブの手紙」から、至福と感謝にあふれた楽想が展開されます。6声のうち、ソプラノIが賛美歌のような旋律をゆったりと歌い(定旋律)、他の5声がこれを優しく飾っていきます。後半の音楽は第2楽章の繰り返し。

■第4楽章：ルターの詞・曲に和声付けされた短い4声コーラルで、バッハと見まがうほど。

さて、第2楽章と第3楽章の後半が同じ音楽なので、この曲はABCBDの5部構成と考えることもできます。するとAが非常に長く、Dがとても短いことが分かります。現世の悩みは深く大きく長く、救済は一瞬に成し遂げられるという意味でしょうか。

〔歌詞はドイツ語〕

1.

Warum?

なぜ?

Warum ist das Licht gegeben dem Mühseligen,

なぜ?なぜ労苦する者に光を賜り、

und das Leben den betrübten Herzen? Warum?

悩み嘆く者を生かしておかれるのか?なぜ?

Die des Todes warten und kommt nicht,

彼らは死を待っているが、死は来ない。

und grüben ihn wohl aus dem Verborgenen;

地に埋もれているものなら喜んで死を掘り出したであろうに。

die sich fast freuen und sind fröhlich,

喜び踊り、歓喜するであろうに…

daß sie das Grab bekommen. Warum?

…彼らが墓を得ることができれば。なぜ？

Und dem Manne, daß Weg verborgen ist,

行くべき道が隠されている者の前で、

und Gott vor ihm den selben bedeckt. Warum?

神はさらに道を覆われなざる。なぜ？

(ヨブ記 3: 20-23)

2.

Lasset uns unser Herz samt den Händen

心を、そして両手も一緒に

aufheben zu Gott im Himmel.

天にいます神に向かって高く上げよう。

(哀歌 3: 41)

3.

Siehe, wir preisen selig, die erduldet haben.

見よ、忍耐した人たちは幸いであると思う。

Die Geduld Hiob habt ihr gehört,

あなたがたはヨブの忍耐について聞き、

und das Ende des Herrn habt ihr gesehen;

主が最後になされたことを知っている。

denn der Herr ist barmherzig und ein Erbarmer.

主は慈しみ深く、憐れみにみちた方であるから。

(ヤコブの手紙 5: 11)

4.

Mit Fried und Freud ich fahr dahin,

安らかに喜ばしく、私はこの世を旅立とう。

in Gottes Willen,

神のご意志によって。

getrost ist mir mein Herz und Sinn,

私の心と魂は慰められた、

sanft und stille.

穏やかに、静かに。

Wie Gott mir verheißen hat,

神が約束なされたように、

der Tod ist mir Schlaf worden.

死は私にとっては眠りとなった。

(マルティン・ルター)

ペンデレツキ「栄光あるおとめよ」

ペンデレツキ(Krzysztof Penderecki 1933～) は20世紀後半から現在も活躍しているポーランドの作曲家です。第二次世界大戦後の東西冷戦時、ソヴィエトの影響が強い東側・共産圏(宗教を公式上否定)で、前衛的な手法(簡単に言えば「変てこりんな音楽」)を用いて「ルカ受難曲」といった宗教曲(ポーランドはカトリック教会が主流で、2代前のローマ法王ヨハネ・パウロ2世もポーランド出身でした)の作曲家として、世界的に知られていましたが、やがてその作風は伝統的なものと回帰していきました。

「栄光あるおとめよ」も、そのような流れの中で、2009年に

作曲、初演されました。聖母マリアに対する呼びかけと祈りが、明るく外に向かっていく感じで歌われます。最初は女声だけが4部に分かれて歌います。次に男声3部合唱が続きますが、すぐに女声も加わります。その後、声部の数を増してハーモニーを充実させながら進んでいき、希望と確信に満ちたフィナーレを迎えます。

(歌詞はラテン語)

O gloriosa virginum,

おお、おとめらの中で栄光ある方(マリア)よ、

Sublimis inter sidera,

諸星の間に高くあらられる方よ、

Qui te creavit, parvulum,

あなたを創られた方(神)を、子(イエス)として、

Lactente nutris ubere.

あなたは栄養たっぷりの乳で育てられる。

Quod Heva tristis abstulit,

悲しきイヴが持ち去っていったものを、

Tu reddis almo germine:

あなたは慈愛の芽(=イエス)で取り戻しています。

Intrent ut astra flebiles,

悲しんでいる者たちが諸星の高みへ入れるよう、

Caeli recludis cardines.

あなたは天の門を開けていらっしゃっています。

Tu Regis alti janua

あなたは崇高な王の門、

Et aula lucis fulgida:

光輝めく宮殿です。

Vitam datam per Virginem,

おとめにより与えられたいのちを

Gentes redemptae, plaudite.

贖われた者たちよ、喜び讃えよ。

Jesu, tibi sit gloria,

イエスよ、あなたに栄光がありますように、

Qui natus es de Virgine,

おとめから生まれたイエスよ。

Cum Patre, et almo Spiritu,

父なる神とともに、また慈愛深い聖霊とともに、

In sempiterna saecula.

いつの世もあなたに栄光がありますように。

第3ステージ

福島県立安積黎明高等学校 合唱団ステージ

ソプラノ

早川 万愉	折笠 陽香	中島 杏那
須藤 ひかる	佐藤 優子	渡邊 知優
斎藤 愛加	大内 香奈	渡邊 彩乃
及川 千遥		

メゾソプラノ

須田 可南子	遠藤 舞	辺見 紗紀
尾形 野乃佳	青木 菜摘	佐藤 夏乃
荒川 多香美	佐藤 亜美	須田 千尋

アルト

関根 有紗	二文字屋 ちゆ	坪井 千晃
原田 萌	大塚 日奈	青木 聖菜
吉田 りな	菅野 友歩	白岩 瑛美莉

テノール

伊藤 隆輔	遠藤 祐人	星 智徳
七井 海龍	本多 浩実	

バス

阿部 瑞生	先崎 惇平	長谷川 道生
宗像 聖陽	菅野 和輝	遠藤 涼
吉田 直生	吉田 悠人	笹島 和輝

第4ステージ

三善晃の作品から

三善晃(1933～2013)は、武満徹らと並び、わたしたちの時代を代表する作曲家です。いや、高校生や大学生、若い世代の人たちにとっては、過去の偉大な作曲家のひとり、という位置づけになるのかもしれませんが、三善晃の出現により、日本の合唱曲はまったく新しい展開を見せました。それまでの単にきれいにハモるだけの合唱から、斬新な和声を駆使した合唱に変わっていききました。ピアノは単なる伴奏ではなく、積極的に主張し、音楽に参加していくものになっていきました。リズムもメロディーも面目を一新しました。そのため、彼の作品は演奏するのがたいへん難しいものと思われていました。

1980年、当時の安積女子高校が彼の「ゆめ」でコンクール大賞(高校部門のみならず、全部門を通じての最高賞)を受賞したことがひとつのきっかけだったかもしれません。彼の難曲に挑戦するグループが増え、彼の音楽がより広まるとともに、合唱界の技術的水準の向上が進んだといえます。

彼が編み出したさまざまな音楽の技法は、より若い世代の作曲家(たとえば鈴木輝昭)に継承され、さらに発展していきました。いわば三善は、今現在の日本の合唱界の豊かな水脈の源泉のような存在といえるのではないのでしょうか。

男声合唱:「朧月夜」「雪」「夕焼け小焼け」

昔は小学校で習った「唱歌」。今の若い方々は歌った経験があるでしょうか。単純ながら味わい深い歌詞、素直で無理のないメロディーも、編曲者・三善の手にかかるとちょっとよそ行きの、おしゃれな上着をまとったようです。元来は1979年、こども(童声)のために三善が編曲したのですが、1983年に混声用、さらに2004年に男声用の編曲が行われました。

女声合唱:「ふるさとの夜に寄す」

1961年、作曲家28歳のときの作品で、合唱曲としてはもっとも早い時期に作られたものです。夭折の詩人・立原道造(1914～39)の詩は、何かの事情で都会からふるさどに帰ってきた「私」の心象—そっと見守っていてほしい—を描いています。そんな繊細な抒情を慈しむように、ピアノと女声合唱による透明な響きが会場を満たしていきます。

混声合唱:「地球へのピクニック」「生きる」

現代を代表する詩人・谷川俊太郎(1931～)と三善晃のコラボレーションは数々の名曲を世に送り出しています。

「地球へのピクニック」は1983年に作曲された組曲「地球へのバラード」の最終曲です。この組曲は無伴奏、つまりピアノがない形で作曲されています。「ここで一緒になわとびをしよう」と、(おそらく)男から女に呼びかけて始まる詩は、この後も「ここで」という歌詞が繰り返され、詩そのものの中にすでに音楽的な何かが蔵されています。繰り返される「ここ」は、タイトルにある「地球」のことでしょう。人々が暮らし、愛し合う舞台となる地球を愛おむこの詩を、地球に生きる喜びの気持ちもこめながら、三善は高らかに歌い上げています。

「生きる」は1999年の大みそかから2000年の元旦にかけて作曲されました。この曲の正式なタイトルは「ピアノのための無窮連禱による 生きる」です。「無窮連禱」とは、休むことなくずっと祈り続けるという意味です。確かにピアノが休みなく一心に祈っているように奏でています。三善自身が言っていますが、このようにピアノの曲を書いているうちに、谷川のこの詩が頭に浮かんで来て、歌のパートを後から入れたということです。なるほど、詩も同じ言葉が何度も繰り返されるなかに、あるイメージを啓示していくように読めます。内面の深いところに訴える、肅然とした雰囲気を持つ曲です。



指揮者 宍戸 真市

Shinichi SHISHIDO

福島県福島市出身。1999年、国立音楽大学音楽教育学科音楽教育専修を首席で卒業。岡本賞受賞。ピアノを内海咲子、小林美樹、岡田隆郎、声楽を伊藤勲、砂川稔、渡辺多津彦、指揮を今村能、小塚類の各氏に師事。

2006年、湯本高等学校に赴任。4年間、同校合唱部の指導にあたる。

2007年、福島県合唱連盟60周年記念青少年合唱団のバスパートリーダーを歴任。ブラハ・ウィーン(アルテンブルク、シェーンブルン宮殿礼拝堂)・ザルツブルクの各コンサート、ミサでバスソロを担当した。

2010年、安積黎明高等学校に赴任。同校合唱団を指揮し、全日本合唱コンクール全国大会で5年連続金賞(2011年 文部科学大臣奨励賞)受賞、NHK全国学校音楽コンクールで金賞・内閣総理大臣賞・文部科学大臣奨励賞を1回受賞した。また、同校クラシック部(弦楽合奏)を指揮し、全国学校合奏コンクール全国大会で奨励賞を受賞している。さらに、安積合唱協会を指揮し、第65回全日本合唱コンクールで銅賞を受賞している。

現在、福島県合唱連盟事務局長、福島楽友協会合唱団理事、安積合唱協会常任指揮者。



ピアニスト 橋本 絵美

Emi HASHIMOTO

福島県郡山市出身。国立音楽大学付属音楽高等学校、および同大学器楽学科ピアノ専攻卒業。ピティナヤングピアニストコンペティションD級銅賞、同デュオ部門特級全国決勝大会入選。大学卒業後、ドイツのドレスデンにて研鑽を積み、現在は福島県内で後進のピアノ指導にあたっている。

これまでにピアノを加藤智子、進藤桃子、山本万里子、デッドレフ・カイザーの各氏に師事。ソロ、合唱伴奏・アンサンブルにも積極的に参加。

橋本ピアノ教室 (<http://www.mio-piacere.com/>)、会津大学短期大学部非常勤講師。



ヴォイストレーナー 紅林 美枝

Mie KUREBAYASHI

福島県立安積女子高等学校卒業。山形大学教育学部総合教育課程音楽文化コース卒業。同大学大学院教科教育専攻音楽教育専修声楽分野修了。二期会オペラスタジオ第45期マスタークラス修了。ウィーン秋期特別アカデミー修了。

1995年山形県ジュニア音楽コンクール金賞グランプリ受賞。1996年日本クラシック音楽コンクール奨励賞受賞。2001年ソレイユ音楽新人オーディション合格。2003年ウィーン秋期特別音楽アカデミー修了。

「山形交響楽団 ニューイヤーコンサート」、「二期会新進声楽家のタペ」、「ベーゼンドルファー ザールコンサート(ウィーン)」等に出演。また、コールOMG(秋田県大館市)、安積黎明高等学校合唱団、安積合唱協会、福島楽友協会合唱団等、数々の定期演奏会等においてアルトソリストとして出演している。2012年、郡山市こころに響くハーモニー事業「四季の風コンサート」出演。2013年、「郡山市成人の集い(成人式)」出演。2014年、石川ユースコーラス、郡山市高等学校合唱連盟復興支援コンサート出演。2018年、けんしん郡山文化センターにおいてリサイタルを開催。

声楽を渡部昭子、藤野祐一、藤野恵美子、野村陽子、オルガ・ワルラ・コロの各氏に、ピアノを長谷川牧子、小野崎通男の各氏に師事。

ピアチェーレ音楽教室主宰。安積合唱協会ヴォイストレーナー。郡山女子大学附属高等学校音楽科非常勤講師。二期会会員。

解説・対訳 酒井 道宏

高校在学中、高麗正宣氏より音楽世界に導かれる。その後、音楽の理論面(音楽史、美学芸術学、表象文化論)を戸口幸策、皆川達夫、海老澤敏ほか諸氏に、実践面(声楽、解釈法、指揮法)を宮下正、前田幸市郎、大谷研二ほか諸氏に師事。さまざまな合唱団からの依頼を受けて歌詞対訳や解説を手がけるなど、合唱音楽の理論と実践を掘り下げて融合させることをライフワークとして活動中。

1992年、中世・ルネサンス、バロック時代の合唱曲を演奏することを目的に、同好の士を募り設立された一般の混声合唱団である。会員は、福島県内外の公務員・会社員・学生など職業、年齢層も多岐にわたっている。設立以来、ほぼ年1回定期演奏会を開催し、その中で節目の15周年にはモーツァルト「レクイエム」、20周年にはフォーレ「レクイエム」に取り組んだ。また、これまでに3回の海外演奏会（1993年にはウィーン、オーバーパルト、ザルツブルク、ミュンヘン各地での演奏、1999年にはフランス・マルセイユにおけるガブリエル・フォーレ合唱団との日仏親善ジョイント・コンサート、2004年にはオーストリア・フォラウ修道院での特別演奏）も実施してきた。

2011年2月からは、穴戸真市氏を常任指揮者にお迎えし、月1~2回程度の定期練習を通じて、古楽の魅力である「優れた音律（チューニング）」と「各声部の完璧な調律（ブレンド）」を目指し活動している。また、全日本合唱コンクールや宝塚国際室内合唱コンクールなどにも積極的に参加しており、2012年には、全日本合唱コンクール全国大会にて銅賞を受賞した。

最近では、2013年と2014年に震災からの復興を祈念し京都府長岡京市で開催されたHarmony for JAPANへの参加をきっかけに、関西の合唱団とも交流を深めており、2015年と2016年には京都パッサ合唱団（主宰：本山秀毅氏）と共演するなど、演奏の幅を広げながら活動を続けている。



安積合唱協会 役員

理事長	曳地 利光	パートリーダー	ソプラノ	志賀 香織
副理事長	浦部 真平		アルト	山本 清子
指揮	志賀 香織		テノール	渡邊 佳文
	穴戸 みゆき		バス	浦部 真平
総務担当理事	志賀 一郎	パートマネージャー	ソプラノ	浦部 智子
人事担当理事	中川 円		アルト	櫻村 貴久子
経理担当理事	齋藤 由紀夫		テノール	仁井 敏昭
企画担当理事	乙高 広幸		バス	渡辺 均
監事	浦部 智子			
事務局長	金成 聡司			

安積合唱協会 団員

ソプラノ	志賀 香織 諸岡 唯 生田目友美	乙高 宣子 神保 明子 佐藤 優子	浦部 智子 阿久津光美 梅宮 優季	数馬 雅子 加藤 順子	中川 円 羽田奈恵子	穴戸みゆき 関 由紀子
アルト	山本 清子 服部 美桜	櫻村貴久子 関根久美子	矢野 夏子 金沢亜喜子	塚本 朋子 末永 幸恵	森 希伊子	金山美和子
テノール	渡邊 佳文 西海石 剛	金成 聡司 酒井 道宏	曳地 利光	齋藤由紀夫	仁井 敏昭	古川 隼斗
バス	浦部 真平 岩井 喬	六角 弘通 桑原 一夫	渡辺 均 武藤 克則	志賀 一郎 望月 浩吉	乙高 広幸	影山 洋一

安積合唱協会のあゆみ

1992(平成 4)年	5月	設立総会
1993(平成 5)年	3月	第1回 定期演奏会(安積歴史博物館講堂)
	12月	第2回 定期演奏会(安積歴史博物館講堂)
		第1回 海外公演(ウィーン、ザルツブルク、ミュンヘン)
1995(平成 7)年 ~2000(平成12)年	3月	第3回~第8回定期演奏会(郡山市内)
1999(平成11)年 1999(平成11)年 ~2000(平成12)年	1月	第2回 海外公演(マルセイユ、ラシオタ、アヴィニョン) 福島県合唱コンクール及び 全日本合唱コンクール東北支部大会出場(銀賞受賞)
2000(平成12)年 2001(平成13)年	3月	特別公演(会津若松市・会津アピオ内(株)共立土建コンサートホール)
	3月	第9回 定期演奏会(郡山市民文化センター中ホール)
	9月	第55回 福島県合唱コンクール(福島市音楽堂大ホール) 金賞 第54回 全日本合唱コンクール東北支部大会(盛岡市民文化ホール大ホール) 金賞
	12月	第10回 定期演奏会(郡山カトリック教会)
2002(平成14)年	9月	第56回 福島県合唱コンクール(矢吹町文化センター大ホール) 金賞 第55回 全日本合唱コンクール東北支部大会(青森市文化会館大ホール) 銀賞

2003(平成15)年	1月	第11回 定期演奏会(郡山カトリック教会)
	8月	第57回 福島県合唱コンクール(いわき市市民会館大ホール) 金賞 高野賞
	9月	第56回 全日本合唱コンクール東北支部大会(秋田県民会館大ホール) 銅賞
2004(平成16)年	1月	第12回 定期演奏会(郡山カトリック教会)
	8月	第58回 福島県合唱コンクール(原町市民文化会館大ホール) 金賞
	9月	第57回 全日本合唱コンクール東北支部大会(山形県民会館大ホール) 銀賞
	11月	やまぐち県民文化祭アカペラフェスティバル招待演奏(秋吉台国際芸術村ホール)
2005(平成17)年	12月	海外公演記念演奏会(福島市音楽堂大ホール)
		第13回 定期演奏会(郡山カトリック教会)
		第3回 海外公演(アイゼンシュタット、フローウ)
	3月	法政大学アカデミー合唱団福島公演賛助出演(福島市音楽堂大ホール)
	8月	第59回 福島県合唱コンクール(喜多方プラザせせらぎホール) 金賞 三浦賞 福島県教育長賞
2006(平成18)年	9月	第58回 全日本合唱コンクール東北支部大会(郡山市民文化センター大ホール) 銀賞
	12月	第14回 定期演奏会(郡山市民文化センター中ホール)
	9月	第60回 福島県合唱コンクール(福島県文化センター大ホール) 金賞
	10月	第59回 全日本合唱コンクール東北支部大会(名取市文化会館大ホール) 銀賞
2007(平成19)年	12月	第15回 定期演奏会(郡山市民文化センター中ホール)
	9月	第61回 福島県合唱コンクール(郡山市民文化センター大ホール) 金賞
		平成19年度 全日本合唱コンクール東北支部大会(青森市文化会館大ホール) 金賞
2008(平成20)年	12月	第16回 定期演奏会(郡山市民文化センター中ホール)
		第24回 福島県声楽アンサンブルコンテスト(福島市音楽堂大ホール) 金賞
	3月	第1回 声楽アンサンブルコンテスト全国大会(福島市音楽堂大ホール) 銀賞
	6月	郡山市民合唱団定期演奏会賛助出演(郡山市民文化センター中ホール)
	8月	第62回 福島県合唱コンクール(南相馬市文化会館大ホール) 金賞
2009(平成21)年	9月	第60回 全日本合唱コンクール東北支部大会(若手県民会館大ホール) 金賞
	12月	平FG合唱団定期演奏会賛助出演(いわき芸術文化交流館アリオス音楽小ホール)
		第25回 福島県声楽アンサンブルコンテスト(福島市音楽堂大ホール) 金賞
	3月	第2回 声楽アンサンブルコンテスト全国大会(福島市音楽堂大ホール) 銀賞
	6月	第17回 定期演奏会(郡山市民文化センター中ホール)
2010(平成22)年	8月	第63回 福島県合唱コンクール(いわき芸術文化交流館アリオス大ホール) 銀賞
	9月	第61回 全日本合唱コンクール東北支部大会(秋田県民会館大ホール) 銀賞
	12月	第26回 福島県声楽アンサンブルコンテスト(福島市音楽堂大ホール) 金賞
	6月	第18回 定期演奏会(郡山市民合唱団賛助出演)(郡山市民文化センター中ホール)
	8月	第64回 福島県合唱コンクール(福島市音楽堂大ホール) 銀賞
2011(平成23)年	9月	第62回 全日本合唱コンクール東北支部大会(山形県民会館大ホール) 銀賞
	12月	第27回 福島県声楽アンサンブルコンテスト(福島市音楽堂大ホール) 銀賞
	7月	第27回 宝塚国際室内合唱コンクール(宝塚ヴェガホール) 総合3位(ルネサンス・バロック部門金賞)
	8月	第65回 福島県合唱コンクール(會津風雅堂大ホール) 金賞
	9月	第63回 全日本合唱コンクール東北支部大会(若手県民会館大ホール) 金賞
2012(平成24)年	12月	第28回 福島県声楽アンサンブルコンテスト(福島市音楽堂大ホール) 銀賞
	2月	第19回 定期演奏会(三春交流館「まほら」まほらホール)
	3月	希望の歌声合唱フェスティバル2012(いわき芸術文化交流館アリオス大ホール)
		第5回 声楽アンサンブルコンテスト全国大会(福島市音楽堂大ホール) 優良賞
	7月	第28回 宝塚国際室内合唱コンクール(宝塚ヴェガホール) ルネサンス・バロック部門銀賞、ロマン派部門銅賞
2013(平成25)年	9月	第66回 福島県合唱コンクール(郡山市民文化センター大ホール) 金賞
		第64回 全日本合唱コンクール東北支部大会(郡山市民文化センター大ホール) 金賞
	11月	第65回 全日本合唱コンクール全国大会(富山市芸術文化ホール オーバードホール) 銅賞
	12月	第29回 福島県声楽アンサンブルコンテスト(福島市音楽堂大ホール) 銀賞
	2月	第20回 定期演奏会(郡山市民文化センター中ホール)
2014(平成26)年	3月	Harmony for JAPAN 2013(京都府長岡京市文化会館)
		第6回 声楽アンサンブルコンテスト全国大会(福島市音楽堂大ホール) 優良賞
	7月	第29回 宝塚国際室内合唱コンクール(宝塚ヴェガホール) ルネサンス・バロック部門銀賞
	9月	第67回 福島県合唱コンクール(いわき芸術文化交流館アリオス大ホール) 銀賞
		第65回 全日本合唱コンクール東北支部大会(宮城県仙台市イズミティ21) 金賞
2015(平成27)年	11月	第3回 ハーモニーコンサート(郡山市民文化センター大ホール)
	12月	第30回 福島県声楽アンサンブルコンテスト(福島市音楽堂大ホール) 銅賞
	3月	Harmony for JAPAN 2014(京都府長岡京市文化会館)
	4月	第21回 定期演奏会 振替公演(郡山中央図書館 視聴覚ホール)
	7月	第30回 宝塚国際室内合唱コンクール(宝塚ヴェガホール) ルネサンス・バロック部門銀賞
2016(平成28)年	8月	第68回 福島県合唱コンクール(會津風雅堂) 金賞
	9月	第66回 全日本合唱コンクール 東北支部大会(リンクステーション青森) 金賞
	12月	第31回 福島県声楽アンサンブルコンテスト(福島市音楽堂大ホール) 金賞 全国推薦
		第5回 郡山音楽フェスティバル(郡山市民文化センター大ホール)
	1月	安積合唱協会・京都バツハ合唱団ジョイントコンサート 第22回 定期演奏会(郡山市民文化センター大ホール)
2015(平成27)年	3月	第8回 声楽アンサンブルコンテスト全国大会(福島市音楽堂大ホール) 銀賞
	7月	第31回 宝塚国際室内合唱コンクール(宝塚ヴェガホール) ルネサンス・バロック部門出場
	8月	第69回 福島県合唱コンクール(福島県文化センター) 金賞
	9月	第67回 全日本合唱コンクール東北支部大会(秋田県民会館) 銀賞
	11月	第6回 郡山音楽フェスティバル(郡山市民文化センター中ホール)
2016(平成28)年	12月	第32回 福島県声楽アンサンブルコンテスト(福島市音楽堂大ホール) 銀賞 全国推薦
	2月	第23回 定期演奏会(三春交流館「まほら」まほらホール)

2017(平成29)年	3月	第9回 声楽アンサンブルコンテスト全国大会(福島市音楽堂大ホール)優良賞 Harmony for JAPAN 特別公演 口短調ミサ演奏会(東北大学100周年記念会館)
	9月	第70回 福島県合唱コンクール(いわき芸術文化交流館アリオス大ホール)銀賞 第68回 全日本合唱コンクール東北支部大会(山形県民会館大ホール)銀賞
	10月	2016希望郷いわて国体開会式(岩手県北上市)
	11月	京都バツハ合唱団特別演奏会 J.S.バツハ「口短調ミサ」(大阪市いずみホール)
	12月	第33回 福島県声楽アンサンブルコンテスト(福島市音楽堂大ホール)銅賞
2018(平成30)年	2月	第24回 定期演奏会(三春交流館「まほら」まほらホール)
	7月	第33回 宝塚国際室内合唱コンクール(宝塚ヴェガホール) ルネサンス・バロック部門出場、ロマン派部門出場
	9月	第71回 福島県合唱コンクール(郡山市民文化センター大ホール)銀賞
	10月	第69回 全日本合唱コンクール東北支部大会(郡山市民文化センター大ホール)金賞
	11月	第8回 郡山音楽フェスティバル(郡山市民文化センター中ホール)
	12月	第34回 福島県声楽アンサンブルコンテスト(福島市音楽堂大ホール)銀賞
	2月	第25回 定期演奏会(郡山市民文化センター大ホール)
	9月	第72回 福島県合唱コンクール(會津風雅堂大ホール)金賞 第70回 全日本合唱コンクール東北支部大会(多賀城文化センター大ホール)金賞
12月	第35回 福島県声楽アンサンブルコンテスト(伊達ふるさと会館大ホール)銅賞	

**賛助会員
個人**
(50音順・敬称略)

大友 範行 1□	金成 文恵 4□	渡部 京子 1□
金山 暖子 1□	佐藤 禮子 1□	渡部 芳雄 1□
金山 澄子 1□	志賀 シモ 2□	渡辺 正恵 2□
金山 英一 1□	渡邊 恵智子 1□	

**賛助会員
団体**
(敬称略)

株式会社コーケン 10□	ホンダカーズ福島 郡山川向店 1□
みんな満足 中国家 1□	安積野・菓子処 平田屋 1□
	カウンセリングルーム ののはな 1□

安積合唱協会 会員募集中

●練習日程 月に1～2回(土・日曜日や祝日)、
9:30～16:30(昼休み1時間)。

●練習場所 主に郡山市内および近郊の練習会場。
(県内外の各方面からの相乗りも可能)。

詳細については、練習見学においでいただくか、事務局へお問い合わせください。

▶安積合唱協会事務局 Tel 090-3640-4322(金成)
E-mail: asaka.chorverein@gmail.com
ホームページ URL: http://www.asakachorverein.com/

～心ふれあう地域医療をめざして～

**医療法人社団 恵周会
白河病院**

理事長 本田恒雄
福島県白河市六反山 10-1
☎0248-23-2700

救急病院

[外来診療科目]

● 内 科	● 外 科
● 整形外科	● 脳神経外科
● 循環器内科	● 心臓血管外科
● 消化器科	● 麻 酔 科
● 腎臓内科	● 糖尿病内科
● リウマチ科	● 人工透析科



Hiroshi Kazuma
Internal Medicine and Cardiology Clinic

かずま医院

内科/循環器科/呼吸器科/外科

医学博士 数馬 博
〒963-8862 郡山市菜根一丁目15-2 Tel.024-934-7750

[診療時間]

	月	火	水	木	金	土
午前	9:00~12:00	休診	●	●	●	●
午後	3:00~7:00	休診	●	午後 休診	●	●

休診日/月曜、日曜・祝祭日、水曜午後

azbil

人を中心としたオートメーション

建物から社会へ、地球環境へ

アズビル株式会社

ビルシステムカンパニー 福島営業所 024-935-7860

〒963-8014 福島県郡山市虎丸町 2-11 郡山虎丸町第一生命ビル
http://www.azbil.com/jp/

(株)山武から社名を変更いたしました。

声楽・ピアノ・ソルフェージュ

ピアノ・チェレ音楽教室

郡山市富久山町久保田字大原 124-11

紅林 美枝

TEL 024-923-9522

C^{hair make}lear

美容室 クリア

小野寺 広美

〒963-8852 福島県郡山市台新1丁目5-8
TEL・FAX 024-935-3151

「日本一」のふくしまをつくる



福島民報社

本社 / 福島市太田町13-17 ☎(024) 531-4111(代)
ご購入のお申し込みは ☎0120-373-437

■ 事業内容



設備	清掃	建築	警備
◎電気・空調・給排水・消防 ◎情報通信・搬送・工事診断	◎日常メンテナンス ◎定期メンテナンス ◎特別メンテナンス	◎新築工事 ◎リフォーム&リニューアル ◎建物調査診断 ◎建築資機材の販売 ◎不動産事業	◎施設警備 ◎交通誘導雑踏警備 ◎機械警備・巡回警備 ◎保安警備
サービス	マンション管理	ホテル・旅館	駐車場
◎インフォメーション ◎スポーツ施設管理	◎基幹事務管理 ◎管理員業務 ◎維持管理業務	◎客室整備・パブリック ◎フロント業務	◎駐車場管理 ◎駐車場運営
環境衛生	資産運営管理	太平遠隔管理システム	その他
◎ビル衛生管理 ◎病院衛生管理 ◎廃棄物処理	◎プロパティマネジメント ◎ビルマネジメント ◎ビルコンサルティング サービス	◎TaRMS	◎人材派遣 ◎医療補助業務 ◎造園及び植栽



全国どこでも太平ビルサービスへ
いつでもお気軽にお電話ください。

▶全国営業網

太平ビルサービス株式会社

郡山支店

〒963-8014 福島県郡山市虎丸町21-10 EME郡山ビル2F
電話番号 024-933-0728 FAX番号 024-933-5754
ホームページ http://www.taihei-bs.co.jp/

日本医療機能評価機構認定病院
地域がん診療連携拠点病院指定



一般財団法人慈山会医学研究所付属

坪井病院

理事長 坪井 永保

院長 原口 秀司

☎024-946-0808

福島県郡山市安積町長久保一丁目10番地13

<http://www.tsuboi-hp.or.jp>

●診療受付時間

月～金曜日 午前8時30分～11時30分

午後1時30分～4時

土曜日 午後8時30分～11時30分

予約専用ダイヤル/024-947-1599

(受付時間/月～金曜日：午前9時～午後4時)

●休診日

土曜日午後、第5土曜日、日曜日、祝日

年末年始(12月30日～1月3日)

訪問看護ステーション

ケアステーションあすなろ

☎024-923-5121

福島県郡山市駅前一丁目12番3号

地域とハーモニーを奏でる



nisshindo group

(株)日進堂印刷所
 本社：福島市庄野字柿場1-1(福島西工業団地)
 支社：郡山・浜みらい・仙台・東京
 TEL 024-594-2211 FAX024-594-2041

トキワ印刷(株) (葉書印刷・商業印刷・エコ事業)
 (株)進和クリエイティブセンター (編集・デザイン)
 (株)エス・シー・シー (企画出版・タウン誌発行)

日進堂印刷所
PRキャラクター



ピアノシモからフォルテシモまで
多彩なデザインを!

Shinwa Creative Center

ふれあいの心をそだてる
株式会社 進和クリエイティブセンター

企画プランニング、デザイン、コピーライティング、編集、取材執筆、撮影、イラストレーション、外国語翻訳、テープ起こしリライト、各種広告物、POP、出版・刊行物の企画・編集・制作、各種映像ソフトの企画・制作、CI計画

〒960-2194 福島市庄野字柿場1-1 TEL(024)594-2145 FAX(024)594-2147

<http://www.nisshindo.co.jp/cc/>

JA 福島厚生連 塙厚生病院

院長 佐川 恵一

〒963-5493 福島県東白川郡塙町大字塙字大町1丁目5 TEL (0247)43-1145 FAX (0247)43-3394
<https://www.hanawa-fkousei.jp/>

はなわ訪問看護ステーション	TEL (0247)43-0073	FAX (0247)43-0073
塙厚生病院居宅介護支援事業所	TEL (0247)43-1105	FAX (0247)43-1394
介護老人保健施設「久慈の郷」	TEL (0247)43-1101	FAX (0247)43-2520

JA 福島厚生連 白河厚生総合病院

〒961-0005 福島県白河市豊地上弥次郎2-1
 TEL (0248)22-2211 FAX (0248)22-2218
 URL <http://www.shirakawa-kosei.jp>

【受付時間】8:00~11:30

【休診日】日曜日、祝日、第1・3土曜日、8月16日、12月30日~1月3日

～ PET-CT がん検診を実施しております～

- しらかわ訪問看護ステーション
- 居宅介護支援事業所
- 農村検診センター
- 付属高等看護学院
- PET 画像診断センター

ASAKA Chorverein

<http://www.asakachorverein.com>

<https://www.facebook.com/AsakaChorverein/>

<https://twitter.com/AsakaChorverein/>